

ベトナム株式市場の格上げ判断は9月へ



《FTSE 新興国への格上げは 2025 年 9 月以降になる見通し》

FTSE ラッセルが 4 月 8 日（米国現地時間）に発表した「各国の市場分類結果」の中で、ベトナム株式市場のフロンティア市場から新興国市場（セカンダリー）への格上げを今回は見送り、引き続きアップグレード待ちリストにとどめることを発表した。2024 年 11 月に外国人機関投資家に対するプレファンディング規制（買付代金の事前払い込みを義務付ける規制）の緩和が実施され、海外機関投資家がベトナム株式市場で規模の大きい取引をスムーズに行う体制が整いつつあったが、いくつかのベトナムの証券会社で、顧客に対して一定の取引証拠金を要求したり、口座開設手続きを厳格にしたりするなどの顧客の利便性向上に逆行する動きがあったことから、監視を続ける必要があると判断したとみられる。また、英語による企業情報開示の徹底、外国人保有制限のある銘柄の取引メカニズム、決済が不調になった場合のバックアップ体制などについても引き続き監視をすることとしている。

《短期的には KRX の本格稼働が鍵を握るが、世界の機関投資家の高い関心も窺える》

監視事項の中で、最もウェイトが高いとみられるのは、プレファンディング規制緩和の実効性を上げることとみられる。そして、その鍵を握るのは KRX（韓国証券取引所が開発した証券取引システム）の本格稼働だろう。このシステムが正式に稼働すれば、売買の同日決済が可能になるなど機関投資家の利便性が大幅に改善するうえ、ベトナムの証券会社にとっても決済リスクや資金負担の軽減に繋がることが期待でき、監視対象となっているプレファンディング規制緩和の実効性向上が期待できる。大口の売買がスムーズにできるようになれば、インデックスファンドの大型化、デリバティブの組成といったビジネスの広がりも期待できる。KRX は既に 3 月 17 日から試験運用が開始され、5 月 2 日に本格的な運用の開始が予定されているが、過去に数度の本格稼働延期が行われた経緯があることから、5 月 2 日の本格稼働開始はもちろん、以降の安定した運用状況も注意深く見守る必要があるだろう。

以上のように、格上げのスケジュールには短期的なリスクが残っている。しかし、多くの機関投資家が、高い経済成長のポテンシャルに裏打ちされたベトナム株式市場での運用拡大を期待していると予想されることから、ベトナム株式市場の格上げは早晚実施されると考えるのが自然だろう。2025 年から 2028 年にかけてベトナムはアジア主要国の中でも最も高い GDP 成長率が予想されており（図表 1）、世界の機関投資家はベトナム株式市場の格上げに大きな期待を寄せていると考えられよう。ニーズが大きい以上、FTSE ラッセルも対応を急ぐメリットは大きいはずである。

図表1 アジア新興国の実質GDP成長率予想

国	2025	2026	2027	2028
ベトナム	6.9	6.8	6.8	6.8
バングラデシュ	6.6	7.1	7.2	7.0
カンボジア	6.4	6.5	6.2	6.3
インド	6.3	6.3	6.3	6.3
フィリピン	6.1	6.2	6.3	6.4
ネパール	5.2	5.1	5.1	5.1
インドネシア	5.0	5.0	5.0	5.0
マレーシア	4.4	4.4	3.9	3.9
ラオス	4.1	4.2	4.3	4.5
中国	4.1	4.1	3.7	3.4
タイ	3.1	3.0	3.0	3.0
ミャンマー	2.5	2.6	2.9	3.4

出所 IMF、世界銀行のデータをもとに当社作成

ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
主な事業 金融商品取引業

有効期限作成日より 180 日

News20250414

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。株式は、価格変動リスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断に行ってください。

ベトナム株式市場の格上げ判断は9月へ



《格上げのインパクト》

正式に 2 次新興国に格上げされれば、機関投資家の資金流入が期待できる。FTSE の新興国市場株価指数の時価総額合計は 8.1 兆ドルとなっているが、ベトナムのフロンティア市場指数における組入時価総額は 370 億ドルに過ぎず、タイの 1,647 億ドル、マレーシアの 1,595 億ドルに比べても低い。また、新興市場に対する投資家のニーズは「高成長」であり、ベトナムの高い経済成長見通しを考慮すると、タイなどの他の国や地域からのベトナムへの資金シフトも十分に期待できる。

図表2 FTSE新興国市場株価指数の国別状況(2024年9月末)

国名	銘柄数	時価総額 (百万ドル)	構成比 (%)
中国	1,233	2,527,962	31.11
インド	243	1,872,795	23.05
台湾	128	1,511,431	18.60
ブラジル	80	386,921	4.76
サウジアラビア	64	344,287	4.24
南アフリカ	40	270,635	3.33
メキシコ	37	173,939	2.14
タイ	49	164,741	2.03
マレーシア	39	159,585	1.96
インドネシア	39	152,014	1.87
その他	274	560,834	6.90
合計	2,226	8,125,143	100.00
(参考)ベトナム	119	37,050	-

出所 FTSE公表資料をもとに当社作成

しかし、外国人の株式保有比率の制限はポートフォリオ構築の障害となるうえ、せっかく投資しようと考えても買えない銘柄があることになる。多くの投資家が直ちにベトナムの株式組み入れを急ぐことにはならない可能性もある。ただし、格上げを契機にポートフォリオマネージャーがベトナム株式市場の研究、個別銘柄のリサーチを開始する可能性は高い。ポートフォリオ構築には至らなくても、個別企業への投資が実行される機会はかなり増えそうだ。短期的な効果は小さいとしても、世界で屈指のペースで経済成長を続けるベトナムと、そこで活躍する企業について、多くのポートフォリオマネージャーは無関心でいられないだろう。

《ニュース証券のご紹介》

ニュース証券は 2008 年 1 月に日本で最も早くベトナム株の取り扱いを開始した証券会社であり、新 NISA を利用した株式分割や株式配当による資産拡大の提案、ベトナム株式の取引に関する技術的なノウハウ、他社にはない取引サービス、30 銘柄を超えるベトナム上場企業のフォローアップレポート（四半期毎）などにより、お客様に対して万全のサポート体制を構築しております。何よりも 10 年を超えるベトナム株式市場での取引経験を有する営業スタッフがおり、いずれも様々なリスク要因や不安に対し、過去の様々な経験をもとに適切なアドバイスする能力のあるスタッフであります。また、米国の関税政策の影響によって世界の株式市場の波乱が続いておりますが、しっかりナビゲートさせていただけるスタッフであります。ぜひ、一度、ご面談の上、ベトナム株投資の魅力や効果についてお話をさせていただければと考えます。よろしくお願い申し上げます。

ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
主な事業 金融商品取引業

有効期限作成日より 180 日

News20250414

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。株式は、価格変動リスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断に行ってください。